

大型新造クルーズ船「飛鳥Ⅲ」へデジタルサイネージソリューションを提供

三菱HCキャピタル株式会社(代表取締役 社長執行役員:久井 大樹/以下、当社)は、郵船クルーズ株式会社が運航する新造クルーズ船「飛鳥Ⅲ」へ、デジタルサイネージとキャビン用テレビのサービスソリューション(以下、本ソリューション)の提供を開始しました。船内共有スペースに設置するデジタルサイネージと全客室に設置するキャビン用テレビ計 868 台を提供、「飛鳥クルーズ」として初の本格的なデジタルサイネージ導入になります。

本ソリューションは、当社がデジタルサイネージおよびキャビン向けテレビ機器のリースと保守・構築支援、グループ会社であるMHCトリプルウィン株式会社がコンテンツ配信システムの提供を担い、それらをワンストップで提供するサービスです。客室のテレビや船内各所に設置されたデジタルサイネージを通じて、リアルタイムなイベント告知や運航情報などの提供が可能です。

郵船クルーズは「つなぐ、ちから。」をコンセプトに、「飛鳥クルーズ」などを通じた非日常空間の創出に取り組んでおり、本ソリューションを通じて船内のパブリックスペースにおける空間価値の向上に貢献します。また、デジタルサイネージの強制視認性を生かし、目的地の観光やグルメ情報を発信することで、船と各地域を結び付け、お客さまのマイクロツーリズム*1を促進するメディアとしての機能も担います。

三菱HCキャピタルは、「2023～2025 年度中期経営計画」において、事業戦略に「ビジネスモデルの進化・積層化」を掲げ、デジタルやデータ活用による高付加価値サービスの提供や新ビジネスの開発に取り組んでいます。2024年10月には、神戸新聞社とともに神戸エリアの大学・高等専門学校の学内にデジタルサイネージを設置し、県内企業の認知度向上コンテンツなどを配信する実証実験を行う*2など「デジタルサイネージを通じた地域の安心・安全な街づくり」に貢献するサービスの提供に向けた取り組みを進めています。

本ソリューションの提供を契機に、デジタルサイネージの活用領域を拡大し、社会課題の解決に向けて取り組んでいきます。



飛鳥Ⅲ



デジタルサイネージ



キャビン用テレビ

- *1 生活拠点から1～2時間程度の移動圏内の「地元」で観光する近距離旅行の形態のこと。
- *2 2024年10月28日開示ニュースリリース「三菱HCキャピタルと神戸新聞社が神戸市内の大学などでデジタルサイネージを活用した実証実験を開始」
<https://www.mitsubishi-hc-capital.com/investors/library/pressrelease/pdf/2024102801.pdf>

■ 飛鳥Ⅲについて

飛鳥Ⅲは、全長230m、総トン数52,265トン、乗客定員740名、全381室がバルコニー付きの豪華客船です。フレンチやイタリアン、和食など多彩なレストラン、展望大浴場・露天風呂やスパ、フィットネス、カジノ、数々のアート作品など、上質な船旅を演出する施設が充実しています。

詳細は、公式サイトをご参照ください。[飛鳥クルーズ公式サイト](#)

■ デジタルサイネージソリューションの概要

各社役割	三菱HCキャピタル: デジタルサイネージおよび周辺機器のハードウェア機器提供、 ハードウェア保守、取りまとめ MHCTリプルウィン: コンテンツ配信システムの提供
設置場所・契約台数	全客室および船内共有スペース(予備機器含め計868面)

■ 本件に関するお問い合わせ先

三菱HCキャピタル株式会社
 コーポレートコミュニケーション部
 〒100-6525 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号
 TEL 03-6865-3002 (直通)

以上